

中学生からの提案 次世代へつなげるまちづくり



市内中学生が市長らに次世代につなげるまちづくりを提案

恵那東中学校



山田 駿君



太田 瑞葵さん

市民公園、市民プールを

最初の提案は、大きな市民公園、市民プールの設置です。少し前まで恵那市役所前には大きな公園があり

私はクマなどの動物たちが住みやすい環境を作っていくことを提案します。ニユースなどからクマが民家などに出没してしまう一番の原因は餌がないことだと思われま。森林伐採などの環境問題によって十分な餌が確保できなくなり、人間の住む所に出てきてしまうのではないのでしょうか。クマを追い払ったり、撃退したりするという一時的なものではなく、クマが本場に住みやすい環境を作っていくことが大切だと思いま

市民の交流で一体感を

中学生が、もっと積極的に交流し、恵那市民としてのきずなを深めるためには、学年や学校内のクラス単位でほかの学校に行き、自分の学校の校歌や文化を披露したり、市内の中学生が参加できるイベントを企画して交流したりする方法はどうでしょうか。各学校のクラブにほかの学校の生徒も参加できるようにすることもいいと思います。

安心安全なまちづくりを

通学路の安全対策について提案します。

10月26日、山岡中学校で市内中学校の生徒が、若者の視点から市長らにまちづくりの提案を行う懇談会が開催されました。

懇談会は、「誇りと愛着を持てるまち 恵那市を目指して」をテーマに開催され、市内8中学校から16人、市長、市議会議長、教育長、山村博道山岡中学校長、総合計画推進市民委員会会長の有本信昭岐阜大学教授、司会者としてまちづくり推進課長の22人が参加しました。生徒からは、地域の課題や働く場の確保をはじめ、お祭りなど各地域の伝統文化を知ることや、中学生同士との交流を望む声が多く出されました。

今回は、懇談会に出された主な意見を紹介します。

恵那西中学校



宮地 恵理子さん



石原 梢江さん

祭りなどの企画に中学生の参加を

毎年秋に行われるみのりのみのり祭に、学生がもっとかかわっていき、子どもから大人まで一緒に取り組める、参加型の活気のある祭づく

恵那東中学校へ通うときに信号（恵那高校北）を2つ通ります。T字路に横断歩道が2つあり、横断歩道のない道路を直進した方が絶対早いのですが、交通量が多くて危ないため中学校では渡ることが禁止されています。このため2つの横断歩道を通じて、遠回りをして、恵那東中に向かいます。

中学生は、先生たちの指導により、危険な行為をしてまで渡る人はいなくなりました。でも現状としては、市民の方や高校生がそこを通過していきます。このため、横断歩道あるいは歩道橋を作っていたらいいと思います。

みのりのみのり祭を市民全員に

みのりのみのり祭には、たくさんの方が集まり、本当に盛大に行われましたが、ロックソランを踊る「イサム」に参加して思ったことは、旧恵那市の参加がやっぱり中心になってしまっているのではないかといいことです。私は、お祭りに参加することで、楽しく充実した時間を過ごせたので、この祭りを合併して大きくなった恵那市の隅々まで広め、市民全員が知っている、恵那市を代表する大きなイベントになったらと思います。

りを提案したいと思います。

現在の祭りは、大人の人がたくさんくっつけているものだと感じています。実行委員会に学生たちも入れて、意見交流などをしてみてはどうでしょうか。学生の参加により意見の幅も広がり、より良い祭りがつくられると思います。

ポランテアの活動も清掃活動だけでなく、イベントの進行、ステージでの発表のサポートなど、実行委員の人たちと一緒に取り組んでいくといいと思います。そうすれば、祭りをみんなでつくっているという実感ができ、より真剣に祭りにかかわっていきけると思います。

私はロックソランを踊る「イサム」というチームで祭りに参加しました。市内小中学生のたくさんの仲間と触れ合うことができ、とてもいい経験になりました。学校や学年が違っても、同じ目的のために一緒に取り組めたということは、素晴らしいことだと思います。

いろいろなジャンルの催しを計画すれば、たくさんの人たちがかわり合い、一層祭りが向上し、恵那市全体の向上につながると思います。

自然環境を守る取り組みを

最近、恵那市の各地でクマが出没しているという知らせを聞きます。

恵那北中学校



柘植 恵月さん



本田千香子さん

新市の大きさを知り交流を

恵那市こども展のポスターを見て、新恵那市がこんなに大きくなったのかということに、初めて気付きました。

恵那北中学校は、恵那市の北部にあり、交流がまったくないため、旧恵南地区の学校のことばかりで分かっていました。同じ旧恵那市でも、恵那西中、恵那東中ともほとんど交流がなく、この懇談会により、皆さんと交流が持ててすこいかなと思えました。

大人の皆さんは、恵那市全体の交流がないことをあまり感じていないと思います。そこで私たち学生が、大きくなった恵那市を実感しながら成長し、大人になったときにしっかりと活動ができるといいなと思えます。

また行ったことのない地域があることに気付きました。だから私たちのようにポスターなどを使って、まだ知らない地域に興味を持って、その場所に行ってみたいと思えるよう

になれば、個人でも交流ができるのではないかと思います。

学校全体のホームページを

地域にあるさまざまなお祭りなどを
知るため、インターネットのホームページを活用しようと思います。
恵那北中学校のホームページもありますが、更新が遅れていて、新しい情報とはいえません。

そこで恵那市全部の中学校のホームページが集まったフォルダを作
ることを提案します。そうすれば、自
分の中学校のホームページを更新す
ると同時に他の中学校のホーム
ページを見ることが出来ます。また
各学校のホームページには、学校だ
けでなく、その地域や出来事を中学
生的にまとめた記事も載せて欲しい
と思います。そうすれば、その中学
校だけでなく、地域のことも知るこ
とができます。

中学生の交流の場を

最後に触れ合う人が変わらないか
ら新恵那市という実感があまりわい
てこないのだと思います。この懇談
会で集まれる人は限られていますの
で、年に一度だけでも各中学校が各
校の文化を発表したり、交流したり
する場を作って欲しいと思います。
例えば合唱を発表するなど、各学

校帰りの子どもたちを預かっていま
す。このほかにもおばあちゃんの家
など、お年寄りの方が活躍できる場
所がたくさんあります。

子どもからお年寄りまでが、共に暮らし、子どもやお年寄りにやさしいまちづくり

交通手段の確保
お年寄りや子どもが利用しやすい
バスの有効利用と明知鉄道の活性化
をして欲しいと思います。

医療施設や介護施設の充実

お年寄りが増加して、介護ボラン
ティアが少なくなってきたため、ボ
ランティア団体を増やし、介護施設
を増やすなどして、介護にか
かわれる人を増やしていけるとい
います。また市内に上矢作病
院、恵那病院以外の入院ができて、
手術のできる病院を増やせるとい
います。

通学路の歩道設置

通学路の狭い所が多く、歩道がな
い所もあるため、通学路を安全にし
て、事故から命を守ることをして
いくと思います。

災害時に対応できるまちづくり

東海地震などに備え、避難所表示
マップを作成し、各家庭に配布した
り、各避難所に看板を立てたり、避
難所への行き方を道路標示したりし
て、災害に対応しやすい町、みんな

校が力を入れていた伝統を発表し、
交流できると思います。そのよ
うな活動を行うことで、まずは中
学生が、自分が住んでいる地域に誇
りを持てるようにしていきたいで
す。そして中学生と中学生の間を縮
め、地域全体へと発展させ、活気あ
ふれる恵那市を作り上げていき
たいと思います。

岩邑中学校



安心安全なまちづくりを

冬が近づき、どんどん暗くなっ
ていきます。ニュースでも誘拐など、
危険なことが多く報道され、学校の
帰りは大変心細くなります。岩村町
には十分な外灯がなく、真っ暗な道
を帰ることが多いため、外灯を増や
していただくと、とても安心して
き、また生徒たちの保護者の皆さん
にも安心していただけたらと思
います。

岩村町は、細い道やカーブがと
ても多く、急に車が飛び出してきた
り、人が飛び出してきたりして、運
転をしていて危険だと聞いたことが
あります。

若い人が郷土で活躍し、活気あるまちづくり

山岡中学校3年生に聞いた将来恵
那市で働きたいかというアンケート
では、イエスが11人、ノーが45人
います。イエスの理由は、この町が好
きだから、近いほうがいいからなど
が挙げられ、ノーの理由は、職種が
少ないから、都会では給料が良さそ
うだからなどでした。将来恵那市で
働きたいと思っている人は少ないの
が現状です。市外に流出することに
よる人口の減少や高齢化を防ぐため
にも、働く場の確保を提案します。
山岡町で多い施設は、デイサービ
スやマレットゴルフ場などで、お年
寄りには、大変住みやすい町になっ
ていると思います。しかし、若者の
ための施設がとてもなく、美容院
やコンビニなどしかありません。市
街地以外の活性化を図るためにも、
旧恵南地域に総合的な娯楽施設を設
けるのはどうでしょうか。

伸び伸びと学習できる学校づくり、地域への学校を広める運動

山岡中学校では、月に2回ほど地
域選択という授業があり、地域の方
に太鼓や茶道などを教えてもらって
います。そういう活動をいろいろな
学校に見に来てもらえたらいいなと

あります。危険な箇所にカープミ
ラーを増設していただけたらいいと
思います。

また明知鉄道の料金を値下げして
欲しいです。明知鉄道は旧恵南地域
で生活している人にとって、恵那や
中津川に移動するための大切な交通
手段で、高校通学の手段としても欠
かせません。明知鉄道の料金が下が
れば、利用する人も増えると思いま
す。また本数をもう少し増やすこと
で、いろいろな地域のイベントも参
加しやすくなり、活気が出て、さら
に利用する人が増えると思います。

大勢で遊べる大きな公園を

かつて市役所の前に大きな公園が
ありました。冬にはイルミネーショ
ンが大変きれいで、それを見るため
に、訪れる人もあると聞きました。
しかし、今では大勢で遊ぶことので
きる公園はなくなってしまいました。
中学校や小学校で遊ぶにも、許
可が必要だと聞きました。

こんな状態で「ゲームばかりしな
いで外で遊んでおいで」と言われて
も、遊ぶことなどできません。不審
者・変質者が増えている中で、公園
を作ることは止めたほうがいいとい
う意見もありますが、不審者・変質
者が増えているからこそ、市民の明
るい目でそういった人々を追いつ

明智中学校



人と人とのつながりを

1 町や学校間などの小さなつながりをつくる

町の中のつながりを作る一つとし
て、市内の町、地区などで町民運動
会などの行事を行います。これに参
加することで町内のたくさんの人と
のかかわりを持つことができ、子
どもからお年よりまでの触れ合いの場
を作ることができます。

学校間のつながりでは、学校同士
が交流する場として、中体連などの
スポーツ的な交流だけでなく、文化
的活動、例えば合唱の様子をビデオ
撮影して、他校との交流をすること
や、先ほどの提案にあったみじの
みのり祭をはじめ、いろいろな行事
でも交流の機会を増やしていけると
いいと思います。

2 市民と行政とのつながりを強くする

すべきだと思います。

中山道を生かす工夫を

中山道を生かした道路管理や施設
管理を提案します。

岩村町は重要伝統的建造物群保存
地区に指定された、古い町並みを町
中で保存しています。家などを昔風
に改築したり、看板を設置したりと
古き良さをアピールしています。

恵那市から中津川市に向けて、歴
史的に価値のある中山道という道が
あります。しかし、どこからどこま
でが中山道なのか正確には分かりま
せん。せつかくの財産なのでから
今よりもっと看板を設置したり、古
い町並みを保存したりして、中山道
を生かす工夫ができるいいなと思
います。

山岡中学校



自然や環境、地域の良さを大切に
にした、温かさのあるまちづくり

お年寄りとの交流、触れ合いの充
実を提案します。山岡町では、コミ
ママといって学童のような施設があ
り、退職された方が先生となり、学

恵那市では、音声での広報を流し
たり、広報紙を発行したりしていま
すが、知る機会や場を設けるため
に、広報紙の改善を行います。今の
広報に子ども向けのページを設け、
字も大きくて読みやすく、イラスト
が入っているものなどにします。

またケーブルテレビを市全体で行
うことにより、行事や市議会の様
子、市からのお知らせなどを映像や
音声を使って、市内すべての家に送
ることが出来ます。具体的な映像で
見る方が分かりやすいし、関心を
持つてもらえると思います。

ケーブルテレビが、市全域に設置
されるのは3年後と聞いています。
市民の中には、ケーブルテレビに期
待している方がたくさんいます。で
きるだけ早く設置して欲しいと思
います。参加への意識を持つことか
ら、人と人とのつながりができ、よ
り良い恵那市をつくっていけると思
います。私も小さなことから一つづ
つ、参加していきたいと思っています。

スポーツクラブを市全体に

明智町には、あけちクラブという
総合型地域スポーツクラブがありま
す。これを恵那市スポーツクラブと
して大きな規模でやっていけないか
と考えています。
大きな規模の恵那市スポーツクラ

プを立ち上げれば、次のようなことが出来ます。

1つ目は、町という小さな規模でなく、広い大きな規模で人を募集することで、サッカーやラグビーなど参加人数の多いスポーツの競技が実現可能になります。また興味あるスポーツを通して、さまざまな人と触れ合うことが出来ます。

2つ目は、地域出身の有名選手を講師として招くことが出来ます。昨年、甲子園に出場した土岐商業高校には、市内中学校出身の選手がいまいた。このような選手をコーチとして招いて、講習会を開き、身近な人とスポーツを学んだり、楽しんだりすることが出来ます。

3つ目は、スポーツを通して大人と子どもが交流できます。明智中学校野球部では、コーチを通して社会人チームと出会い、指導や試合をしていただきました。休憩時間には、お互い一人の選手として話し合い、野球以外のことで話が盛り上がりました。

恵那市スポーツクラブを立ち上げることで、地域の全員がスポーツを通していろんな人とのかわりを持ち、スポーツの技術も向上できると思います。そして子どもたちは、スポーツに学び、人間的にも成長し、生き生きとしたまちづくりができる

ルの子どもたちとバーベキューや野球をして交流を行い、とても充実した時間を過ごすことができました。恵那市は、異文化を経験する機会としてオーストラリア研修を行っています。各地域がこれまで交流してきた地域や国とのつながりを今後大切にしていけないでしょうか。

安心して暮らせるまちづくり

少子化対策として、育児制度の見直し、補助金制度や託児所の整備、特に0歳児から預けられる施設を新設するなど、安心して子育てができるまちづくりができないでしょうか。

上矢作町の高齢化率は、約38%と非常に高い割合を占めていることから、福祉施設の充実を提案します。上矢作町の福祉施設、福寿の里では、入所するのに数年待ちという状態です。施設の増設を行い、入所できる人数をもっと増やし、施設で働く従業員の拡大をするのいいと思います。また学校と福祉施設を隣接し、地域ぐるみでかわつていけるような福祉施設があれば、地域との交流がもっと活発になると思っています。

上矢作町では、交通の面で不便さを感じます。特に3年生の中には、通学に頭を悩ませている人もいま

と思います。

串原中学校



中山太鼓を市全体で

恵那市には、たくさんの伝統や行事があると思います。でもその行事や伝統を市全体で理解できているかというとそうではないと思います。みのじのみり祭は、今年初めて知りました。

中山太鼓は、串原で古くから伝わる、とても伝統的なものです。遠く石川県や、外国に行つてたたくこともありますが、市内でたたくことはあまりないと思います。今年は、みのじのみり祭でたたいた以外に、明智町の介護老人保健施設ひまわりでたたいています。やはりあまり知られていないと思います。

中山太鼓を発表する機会を増やしていただき、恵那市の人々に知ってもらい、恵那市の人々がたたくのと伝統行事としてずっと残していくことができると思いますので、たたくようになってもらいたいと思います。

す。バスの運賃を市内同一にしたリ、バスの本数をもっと増やしたりすることはできないでしょうか。

新しい伝統作りを

へき地芸術文化交流事業という行事では、県内から集つた各学校が学校の伝統行事や地域ならではの取り組みを発表し、交流しました。串原中学校の中山太鼓、加子母中学校の地域の産業を生かした林業体験といった素晴らしい取り組みがありました。自分たちの学校の良さを再認識し、ほかの学校の良さを学ぶいい機会となるこのような交流を市内の学校同士でも行うといいと思いま

上矢作中学校では、毎年CBCコンクールに参加しています。校内で合唱交流をしたり、地域の方々に聞いていただいたりする機会を設けていますが、より良いものにしていく刺激を得るため、コンクールに参加しています。毎年11月ころに各学校の代表学級が集まり、合唱コンクールができれば、交流する場も増え大変素晴らしいものになると思っています。

このように地域の活性化、安心して暮らせるまちづくり、新しい伝統づくりを進めていくことができれば、素晴らしい恵那市になっていく

また学校間の文化交流も深まれば、ほかの学校などの伝統文化も分かるし、中山太鼓も知ってもらえると思いますので、機会を増やしていただきたいと思います。串原の伝統を広めるだけでなく、ほかの地区の行事にも串原の人が参加するなど、地域の交流がもっとあるといいと思います。

僕の感想ですが、今年みのじのみり祭に参加させていただいて、たいたのですが、観客の中で泣いてくれる人がいて、とてもうれしかったです。感動してくれる人がいるのにたたく機会がないのは、残念で、できれば毎年恵那市の広い地域でたたくことが願いです。

中山太鼓で交流を

串原中学校では、中山太鼓を毎週総合学習の時間で練習しています。現在は全校生徒が18人で、だんだん人数も少なくなつてきています。そこで恵那市内の中学校から来ていただいたり、串原中学校からほかの学校へ行つたりして、一緒に太鼓を学ぶということができれば、伝統も広く受け継ぎやすくなるのではないかと思います。

交通を便利に

串原はどこに出掛けるにも車が必要

と思います。

有本信昭教授のまとめ

中学生の皆さんのたくさんの貴重な提案を集約した言葉として、「共同体」という言葉を思いつきました。英語では「コミュニティ」といいます。江戸時代では、農村共同体があり、農家の人は共同で水を引いたりするのに共同体に属しないと生きていけませんでした。

構成員は男の人で、女の人や子どもたちもそれぞれの組織を持ち、お祭りや地域の行事を行ってきました。それが小さい共同体では、うまくいかなくなり、どんどん大きくなってきました。こうした合併により共同体の機能を大きくしたものが恵那市という範囲になります。かつての共同体の機能は小さくなりましたが、お祭りや伝統文化などいろんなことが残つていて、恵那市という共同体の下に三層から四層の共同体が数珠つなぎになっています。

今、我々に求められますのは、その伝統的な文化を受け継ぐ共同体を守り、いかに維持していくか、ということだと思えます。

20歳を過ぎた男の人も女の人も、今この新しい共同体の構成員ですから、その共同体をいかに盛り立てて

要です。交通の便がもっと良くなればいいと思います。本などにどこに出掛けるにも車が必要で、登下校にもバスを使っていますので、もっと交通の便を良くしていただきたいと思っています。

上矢作中学校



地域の活性化について

働く場所の確保を

少子化問題の一番の原因は、若者が他市や他県へ出て行ってしまつてとだと思えます。地域の特性を生かした産業、上矢作町では木を活用した産業などをさらに発展させたり、企業を誘致したりして、雇用促進できないでしょうか。

地域国際交流活動の継続を

上矢作町はモンゴル国との交流を続けてきています。今年はモンゴル国から8名の生徒が上矢作町に訪れ、授業や太鼓により全校で交流することができました。

生徒会活動では、オユンナさんのコンサートの際に募金活動をしました。またホームステイでは、モンゴ

いくかということに責任を持っています。子ども皆さんも学校という新しい子どもだけの共同体ができていて、そこで親や先生方と一緒に共同体を培っていく、生徒会はそのための1つの自治的な集まりという位置付けになります。それが恵那市という大きな共同体の一部として、生徒の皆さんの共同体というものを培っていくことが求められている、と思います。

一言で言いますと、学校間交流が、中学校の生徒の皆さん方の新しい共同体を作る一環を担っています。共同体のそれぞれの場所で共同体を確保しながら、それが集まって恵那市の生徒の文化や伝統やその維持発展を図っていくことが求められています。

大人の世代から言いますと、それぞれの基礎的な共同体をできるだけ守りながら、その培った大きな共同体としての恵那市の伝統文化を受け継ぎ、次の世代に発展させていく。そういう課題を抱えています。

中学生の皆さんも、いずれは大人になりますので、そういう意味で連続性と統一性を持つた共同体というものをはか、それぞれがそれぞれの場所を培っていくか、ということに我々は着目していきます。